

平成26年10月20日

【平成27年度苫小牧市予算編成方針】

苫小牧市長

《国の経済情勢》～内閣府 月例経済報告より～

国内経済について、景気はこのところ一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いており、先行きについては、当面、一部弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されている。一方で、駆け込み需要の反動の長期化や海外景気の下振れなど、景気を下押しするリスクに留意する必要があるともされている。

国においては、大震災からの復興を加速させるとともに、デフレからの脱却を確実なものとし、持続的成長の実現に全力で取り組むため、平成26年度予算の早期実施に努め、経済の好循環の実現に向け、経済財政運営を進めることとしている。

《本市の財政状況》

本市においては、平成25年度決算で市税収入が前年度を下回らなかったものの、未だリーマンショック以前まで回復するまでには至っていない。

新年度予算においては、景気回復に伴う市税増は一部で見込まれるものの、地方交付税は、特別加算枠の更なる削減など、根幹となる歳入の増額要因が顕著に現れてこない状況にある。また、実施が予定されている27年10月からの消費税増税、電気料再値上げなど歳出増要因もあり、変動要因にも適切に対応しなければならない。

これまで着実に取組んできた、「財政健全化計画」と「行政改革プラン」を今後とも継続し、効率的で効果的な行財政運営を行うとともに、新たに発生する行政需要や政策課題への対応を実施するため、財政基盤の確立・強化を図っていく。

《予算編成の基本的な考え方》

平成27年度は、老朽化による公共施設等の大規模な改修の着手などとともに安心安全対策や小中学校耐震化の継続など、取り組まなければならない課題は山積している。

本市の財政状況は改善に向かっているところだが、国の経済情勢や財政状況など、先行きの見通しが見えない難しい局面であることを十分に考慮のうえ予算編成に取り組んでいただきたい。

## 【基本方針】

平成27年度予算編成は、昨年度と同様に「選択と集中による政策主導型予算編成」を継続するとともに、「歳出構造改革」など財政基盤の確立・強化を進めていくこととし、次の重点施策・取組を定める。

## 【重点施策・取組】

### (1) 「活気みなぎるふくしのまちづくり」事業の優先化

地域との協働へとつながる「ふくしのまちづくり」に関連した事業を実施し、子育て支援など環境の整備・充実を進めるとともに、高齢者・障がい者の住みよい環境づくりなどにも取り組んでいく。

また、中心市街地活性化や地域を支える経済振興策を実施する。

### (2) 「安心安全なまちづくり」事業の重点化を継続

集中豪雨等への対策を数年間の集中期間を設定して強化していく。

また、老朽化による公共施設等の改修・建替えを実施するとともに引き続き、学校の耐震化や通学路の整備などを継続し、防災拠点の充実・強化へも取り組む。

### (3) 財政基盤の確立・強化へ向けた取組

変動要因への適切な対応のため、枠配分事業をゼロベースから組み立て、恒常的に実施している事業を基礎から固めつつ、今後の公共施設の更新に備え公共施設整備基金への積み増しを実施するとともに、歳出構造改革での既存事業の見直しと予算の付替え、土地開発公社の解散など時代に対応した財政運営を実施する。

## 《 む す び 》

財政健全化の推進や行政改革の取組など不断の努力の積み重ねにより財政状況は改善に向かっているところだが、少子高齢化と人口減少が同時進行し、今後においては、社会保障費の増大と市税収入の減少が予測され極めて難しい局面を迎えており、一方で公共施設の老朽化による更新が迫っているなど、これからのまちづくりを考えると財政基盤の強化は、片時も緩めるべきではなく、むしろ、より一層のコスト意識を持ちつつ、市民ニーズや時代、社会情勢への対応が求められるところである。

予算執行に当たっては、効率的・効果的な執行に努めるとともに、平成27年度の予算編成に当たっては、「財政基盤の確立・強化」に向け、より一層、効率的な行財政運営や市民サービスの向上に努め、市民の皆さんと共に「活気みなぎるふくしのまちづくり」を進めていくため、職員それぞれがマネジメント力を発揮し、予算の編成、執行に真摯に取り組んでいただきたい。